

幼少期の入院経験から 現在の仕事につながること

上川北部医師会
名寄市立総合病院

岩田 千広

医師になって4年目に入り、仕事に対して少しずつですが自信もついてきました。この場をお借りして初心に戻るといふ意味も込めて、医師を志したきっかけの一つを書きます。

私は4歳のときに川崎病で入院したことがあります。初めは溶連菌感染症が疑われ、地元の診療所に入院しました。しかし、抗菌薬の効果がなく、別の病気かもしれないと考えた診療所の先生が精査加療のために旭川厚生病院へ転院させてくれました。転院の際に初めて救急車にりましたが、患者の私はストレッチャーに横になり、バンドで固定されていたため救急車の中では天井しか見えず、とてもつまらなかった記憶があります。

旭川厚生病院に到着して、髄膜炎の除外のために腰椎穿刺をされました。何人かの医師や看護師に急に押さえつけられて、びっくりしました。自分で言うのもおかしいですが、私は4歳児にしてはいい子で我慢ができる方でしたので、説明もなく急に押さえつけられて腰に痛い針を刺されたことの方が恐怖を感じました。検査結果が出る前に主治医の先生が私の症状から川崎病が疑われるとして、転院初日から免疫グロブリンなどの治療を開始してくれました。数週間の入院中に私は苺舌などの川崎病の主要臨床症状6項目をすべてコンプリートしました。治療が無事終わり、元気になった私はお世話になった主治医の先生に似顔絵をプレゼントして退院しました。

診療所の先生がすぐに紹介、転院させてくださり、旭川厚生病院の先生が早期に治療を開始してくださったおかげで、私は心臓血管後遺症などを合併することなく経過しています。医師を志したきっかけはこれだけではありませんが、中でもこの川崎病のエピソードは私にとってとても影響の大きい出来事でした。また、医師国家試験では川崎病の問題が得点源の一つで、こんなところでもこの経験が活かしました。

現在、私は麻酔科専攻医として働いています。硬膜外麻酔などで患者の背中や腰に今度は私が針を刺す立場になりました。子供に麻酔をすることもあります。どんなに年齢を重ねた患者でも、多くの方は緊張して手術室に入ってきます。子供は怖くて母親と離れたくないと泣く子がほとんどです。そんな方々に処置や麻酔をする上で患者の協力を得るためにも、声かけは重要です。無事に手術が終了するように、手術後は少しでも痛みや苦痛がないように心がけて、多くの方のためにこれからも仕事をしていきたいです。

飛行機に私の座席がない

札幌市医師会
新札幌パウロ病院

高階 俊光

今年の夏の終わりに富山県の「越中八尾おわら風の盆」のお祭りに行ってきました。その帰りの日本を代表する航空会社での出来事です。

小松空港から乗り継いで東京に一旦降りてから新千歳空港に向かう羽田空港で搭乗を待っていました。アナウンスで、妊娠中の方、子連れの方、ゴールドカードなどの優先搭乗から始まり…そして「座席番号30番目以降の方…」と案内されて、座席番号33番目K席の私は改札機でチケットをかざし、出てきた控え券を持っていつもどおり機内へ入りました。入り口に置かれている籠の中の飴をいつものように取りました。

前方ではAからKまでの席が並んでいて、K席は窓側と認識しました。ところが33番目に来たところ、その列の席はAからG席は存在していたのですが、何度も確認してもH、I、J、Kの席が存在しないのです。G席の横にトイレがありました。その間H、I、Jの席を座る人は現れませんでした。仕方なしに33番目のGの席に座ってCAさんが通ってくるのを待っていました。まだ頭の中はK席がないはずはないと思っています。…そしてようやく事情が飲み込めました。私のK席はなんとトイレだったのです。大半のCAさんは入り口にいて乗客の対応と誘導に当たっています。しばらくしてやってきたCAさんに事情をお話ししてチケットをお見せしますと、彼女もいぶかしげにちょっと頭をかき、その席がないことを確認しました。私は「K席はトイレですか」と笑いを浮かべながら彼女に聞きました。彼女もニコニコ顔で対応に当たっています。さらに私は「トイレの便座のK席でもいいですよ」と言うと、CAさんはどこまでも笑顔で「いつも空いているとは限りませんので」との対応でした。心の中でくうまい(対応)、座布団2枚>と叫んでいました。「控え券、ありますか」と聞かれて、サイフから取り出した改札機での控え券を確認して、それを持って彼女は善後策のために前方に消えていきました。しばらくして戻ってきて渡された控え券に「23-K」と手書きで書かれていました。そして彼女に案内され、無事窓側の席に座ることができ、帰路につきました。

切手などの収集癖のある私にとって、おわら風の盆の会場の郵便局で購入したおわら盆の地方切手のシートとそのチケットの控え券は蒐集の一品となりました。

その後の航空会社内での責任問題はどうなったのでしょうか？ 美しいCAさんの顔が鬼のようになってクレームを付けたのでしょうか？

旅の疲れが一瞬吹き飛んだ珍しい出来事でした。私が「スチュワーデス」と連呼すると、女房が「今はね、CA(キャビン・アテンダント)と言うんだよ」と丁寧に？教えてくれました。